

科目名	教 職 論					開 講 キャンパス	神 園
担 当 者	赤 星 まゆみ						
開 講 年 次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必修（3、4年） 選択（1、2年）
授業の概要 及びねらい	近年、教職に対する期待は非常に高く、教師・保育者には専門職としての高度な知識技術とともに高い資質・倫理観や強い意欲が求められている。本授業は、教師や保育者を志望する者が、教職・保育職の本質を理解し、その職に求められる資質・適性・意欲を見極めることを目的とし、教職の意義や教師・保育者の役割、職務内容などについて講じ、現代に求められる教師・保育者の資質・倫理観についての考察を行う。						
授 業 の 到達目標	1. 現代の教育・保育の諸問題について関心をもつ。 2. 現代社会における教師や保育者の悩みや困難を理解し、その背景を考察することができる。 3. 教職・保育職の意義について理解し、説明できる。 4. 現代の教師や保育者の役割・あり方について自分なりの考えをもち、それを述べることができる。 5. 教育・保育の制度と教育・保育にかかわる職種について理解し、説明できる。 6. 教師・保育者の養成教育、免許・資格について理解し、説明できる。 7. 教師・保育者の採用・研修について理解し、説明できる。 8. 教師・保育者の職務内容について説明できる。 9. 教師・保育者の身分、任用、服務について説明できる。 10. 自らの教師・保育者としての資質能力について省察し、適性を見極め、自己の課題を明らかにする。 11. これからの社会における教師や保育者に求められる資質と社会的責任、その課題について考えることができる。						
学 習 方 法	講義形式を中心とするが、視聴覚教材を援用し、部分的にグループワークや発表、小テストを取り入れる。また、レポート等の課題提出を求める。						
テキスト及び参考書等	テキスト：『改訂 これからの教師 〔第2版〕』建帛社。 参考書：『保育所保育指針 解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、『最新保育資料集』ミネルヴァ書房、『新教職概論』学文社、『教育学キーワード』有斐閣。その他、授業のなかで適宜、指示する。必要に応じて資料を配付する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎	◎	○		70	
小テスト等			○				
宿題・授業外レポート	◎	◎	◎	○		30	
授業態度			○				
受講者の発表	○	○	○				
授業への参加度			○	○			
その他	授業への積極的な参加は、評価の際、10%の範囲内で加点します。また、参加度が良くない場合は、評価の際、10%の範囲内で減点します。なお、出席が3分の2に満たない場合は成績評価を行いません。						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	ガイダンス（授業の目的、内容、方法）—教師・保育者のイメージ						
第2週	教育・保育の制度と教育・保育にかかわる職種—日本と世界の動向						
第3週	教師の養成教育・免許制度、保育士の養成教育と資格						
第4週	教職・保育職の意義—なぜ教師・保育者を志すか：教師に求められる資質能力						
第5週	日本の学校教育と教師（1）—教師像の変化						
第6週	日本の学校教育と教師（2）—教師の多忙						
第7週	日本の学校教育と教師（3）—悩む教師の実像						
第8週	教師・保育者と子どもの関係（4類型）—子どもとどう向き合うか						
第9週	教師の役割：「教える」ということ、カリキュラムを作ること、授業技術など						
第10週	望ましい教師像・保育像—どのような教師・保育者になりたいか						
第11週	教師・保育者の職務内容と評価						
第12週	教師・保育者にかかわる法規：身分・任用・服務・採用と研修						
第13週	教師・保育者の職務内容の法的側面						
第14週	これからの社会と学校・教師の課題—情報化・グローバル化・ジェンダーなど						
第15週	まとめ—自己の資質・適性と課題						
第16週	定期試験						
備 考	授業への積極的な参加としてノートの作成を重視する。また、事前学習及び学習課題等に関する記載をした詳細な授業計画は、授業開始時に配付する。						